

目次

- 第45回国際統合化委員会モンリオール会議.....1
 - ◎ 議題およびJIMGAからの報告について

- AIIGMAの今井会長表敬訪問.....2
 - ◎ インドAIIGMAのメンバーがJIMGAを訪問

- CGAセミナー出席報告.....3
 - ◎ 主なテーマ

- 「封キャップ-W22」が2019日本パッケージングコンテスト適正包装賞を受賞.....5
 - ◎ 医薬品医療機器法で規定される「封」機能を評価

- 2019年度上期 国際統合化指針(文書)の発行.....6
 - ◎ JIMGA基準類・国際統合化指針1件、国際統合化文書(参考文書)4件を発行

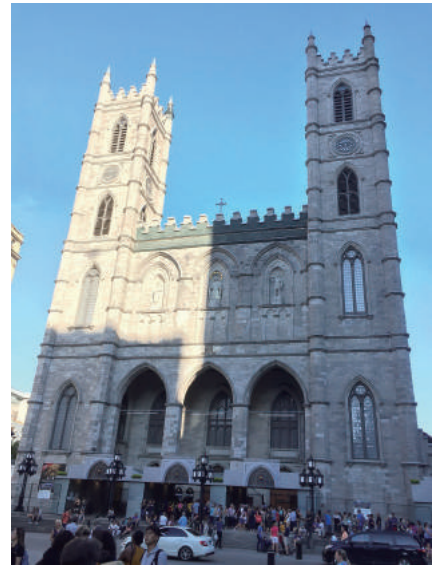
- 新事務局員の紹介.....7
 - ◎ 東北地域本部および産業ガス部門の新事務局員を紹介

- 気ままにコラム.....8

第45回国際整合化委員会モントリオール会議

2019年8月20日～21日に、CGAの主催により、第45回国際整合化委員会（International Harmonization Council：IHC）がカナダ・モントリオールのセントポールホテルで開催されました。モントリオールは「北米のパリ」とも呼ばれ、建物や街並みにヨーロッパ的な雰囲気があります。16世紀にヨーロッパ人が入植したことにより発展し、現在は人口約350万人でトロントに次ぐカナダ第二の都市となっています。

会議にはAIGA（アジア）は欠席でしたが、CGA（アメリカ／カナダ）5名、EIGA（ヨーロッパ）4名、JIMGA（日本）3名（加藤専務理事、羽坂常務執行役員、久和野）の総勢12名が参加しました。



モントリオールの観光名所の
ノートルダム寺院

議題およびJIMGAからの報告について

会議では主に、IHCとISO等の他の国際標準化組織との関わり方、IHC基準制定・改訂までの時間短縮、Sustainability指標への対応方法等が議論された他、各協会から活動実績の報告およびIHC文書の新規提案の内容確認や改訂予定文書の進捗確認などが行われました。さらに7月に中国で発生したASU爆発事故への今後の対応についても議論されました。JIMGAからは、活動実績報告として10月に予定されている消費税増税への業界としての適切な対応、容器の特別回収月間の取組と活動促進ポスターの紹介、JIMGAが開発した医療用ガス容器弁に取り付ける



第45回IHCモントリオール会議の様子

封キャップが表彰されたこと、および事故の発生状況を報告しました。またIHC文書については「ヒヤリハット事例集－特殊材料ガス編－」を含む5基準を日本国内で発行したことを報告しました。さらに、CGAからはCGAの活動範囲にエンドユーザでのガス使用やカナダへの輸送も加えること、また、EIGAからは酸欠注意のピクトグラムをISO版に準拠させる等の報告がありました。

次回第46回IHC会議は、2020年2月25日～26日にJIMGA主催により横浜で開催されます。

（IHC対策WG長 久和野 敏明）



第45回IHCモントリオール会議参加メンバー集合写真

AIIGMAの今井会長表敬訪問

AIIGMA（全インド産業ガス製造者協会）が日本の産業ガス業界視察を目的に東京と大阪を訪問する機会をとらえ、2019年9月13日に今井会長への表敬訪問が行われました。AIIGMAは1984年に発足し、インド国内で産業ガスを製造している約300社を会員に有する協会です。主に、地場（外資系を除く）の会社が会員となっています。

AIIGMAからは、Tiku代表をはじめ13名が参加し、JIMGAからは、今井会長、加藤専務理事、瀬戸常務理事、羽坂が参加しました。

AIIGMAの紹介では、製鉄産業や化学産業へのガスの製造と供給を主に行っており、産業ガスは10%以上の成長産業であることが説明されました。また、来年2月に中東のバーレーン（サウジアラビアとカタールの間にある島国で観光名所）で開催されるセミナーへの参加依頼がありました。JIMGAからは、JIMGAの会員の推移と組織、最近の活動トピックス（事業方針、産業ガス部門、医療ガス部門）を紹介するとともに、消費税増税（8%→10%）に対する適正な転嫁について注力していることを説明しました。

討議では、日本国内の医療ガスの法的な規制や価格の取決めについての質問があり、高圧ガス保安法および医薬品医療機器等法の規定に基づく運用と診療報酬を踏まえて各社において価格決定されていることを回答しました。また、容器の再検査に関する質問に関しては、高圧ガスの定義が、高圧ガス保安法によって明確であり、その高圧ガス容器は、都道府県の認証を受けた機関が、容器再検査を5年毎に行っていることを説明しました。さらに、高圧ガスの事故については、報告しなければならない事故が規定されており、経済産業省によってその事故統計報告が行われ、その結果は、関係者が容易に閲覧可能であることを説明しました。

最後に、プレゼントの交換を行いました。AIIGMAからは、インドで作製し持参した「JIMGA今井会長表敬訪問記念プレート」がTiku代表より今井会長に手渡されました。JIMGAからは、日本の浮世絵を蒔絵にしたカードケースがAIIGMAの参加者全員に贈られました。

短い時間でしたが、インドの産業ガス協会と日本の産業ガス協会の相互の理解と友好が図られた会議となりました。

（国際部会事務局 羽坂 智）



今井会長とTiku代表



AIIGMAおよびJIMGAの参加者

CGAセミナー出席報告

10月16~17日に、アメリカCGA（Compressed Gases Association）が主催するセミナー（Safety and Reliability of Industrial Gases, Equipment, and Facilities Seminar）が開催され、JIMGAとして出席しました。

今年も昨年同様、開催場所は、アメリカ、フロリダ州のHollywood Beachで、Hollywood Beach Hotelという大西洋に面したホテルでした。

出発は15日朝で、12~13日に関東地域を通過した台風19号の影響が心配されましたが、予定通りのフライトで行くことができました。成田から約12時間でアメリカ、ダラス、そして乗り換え後、約3時間のフライトと、トータル約17時間かけてフロリダのフォートローダーデール空港に到着しました。

セミナー参加者は、世界から60人が参加。日本からは、大陽日酸(株)エンジニアリング本部ASUエンジニアリング部P&I長澤課長、生産・物流本部プロダクト技術部の高山部長、そしてアメリカマチソントライガス社へ出向中の^{つしま}對馬副社長（ASUエンジニアリング）の3名が参加されました。

参加会社・団体は、Air Liquide、Air Products、Linde、Praxair、Matheson、Messer、大陽日酸、Cryomech、Oxygen and Argon Works Israel、Fives Cryo、HYDROPROB、EIGA、JIMGA、CGA等々でした。また参加国は、アメリカ、カナダ、フランス、イタリア、ドイツ、スイス、ベルギー、クウェート、イスラエル、コロンビアそして日本の11か国でした。

セミナーは、18のテーマから構成されており、「空気分離装置に関連する設備の安全性と

信頼性」に特化したものでした。このセミナーでは、純粋に設備の設計や保全に関して、安全、信頼性を高めることに対して、会社間の壁（ノウハウ等）を超えて討議している姿を見ることができました。

CGAでは、毎年当該セミナーを実施しています。

参考までに今回のテーマの中から、興味深いものをP4でご紹介させていただきます。



Hollywood Beach Hotelからの眺め



セミナーの様子

主なテーマ

1. Bulk Storage Tank Incident
「平底貯槽タンクのトラブル事例」
発表者: Sudhir Phakey, Linde
2. Overpressurization of a flat Bottom Tank
「平底貯槽タンクの圧力上昇トラブル」
発表者: Pierre Petit, Air Liquide
3. Liquid Nitrogen Spill Test-Experimental Results and Emergency Response Implication
「液化窒素の漏洩テスト」
発表者: Jim Eaton, Praxair Elizabeth Lutostansky, Air Products
4. Oxygen Hose fire
「液化酸素ホースの燃焼」
発表者: James White, Praxair Anna Wehr-Aurland, Praxair
5. Sudden Failure of a Reciprocating Compressor in Oxygen Service
「レシプロ酸素圧縮機の突然の事故」
発表者: Kate O'Handly, Matheson
6. Liquid Oxygen Pump Overpressure Due to Backflow
「液化酸素ポンプのバックフローによる圧力上昇トラブル」
発表者: Dr.John Somavarapu, Air Liquide
7. Failure of a De-Aerator Heater
「脱気ヒーターのトラブル」
発表者: Edward Richey, Praxair
8. Dual Plate Check Valve Pin and Spring Wear
「ダブルプレート型逆止弁のピンとスプリングの損傷」
発表者: Chad Texter, Air Products
9. Moderating Dispersion of Atmospheric Gas Vents: A New Model
「ガスの大気放出のモデリング」
発表者: Derek Miller, Air Products
10. An Incident Related to LOX Vacuum Jacketed Pipe
「真空配管のジャケットによる発生事故」
発表者: Jerry Lu, Air Products China

(技術・保安部会事務局 岡田 恵二)

「封キャップ-W22」が2019日本パッケージングコンテスト適正包装賞を受賞

2019日本パッケージングコンテストにて、本年1月7日よりJIMGAが販売を開始した「封キャップ-W22」が適正包装賞を受賞し、8月29日に東京ガーデンパレス高千穂の間にて行われた表彰式に出席しました。

本コンテストは、優れたパッケージおよびその技術の開発普及を目的に、公益社団法人日本包装技術協会主催により年1回開催されています。本年は389件にのぼる応募作品の中から、「封キャップ-W22」が適正包装賞を受賞しました。



適正包装賞 賞状



封キャップ-W22の使用法

この度受賞した適正包装賞は、合理的かつ最も公正であることが審査基準であり、

医薬品医療機器等法に規定される「封」機能を遵守し、容易には現状に復することができず、わずかな力で開封でき、かつ充瓶か空瓶かの判別が容易となり誤使用の防止となる点が評価されました。

医薬品の「封」については、平成29年1月に発生したC型肝炎治療薬の偽造品が流通した事案を踏まえて、厳格化の方向にあります。この要請に沿った「封キャップ-W22」は既に約100万枚の販売実績となっており、この受賞を機にさらに普及に努めてまいります。

(医療ガス部門 事務局)



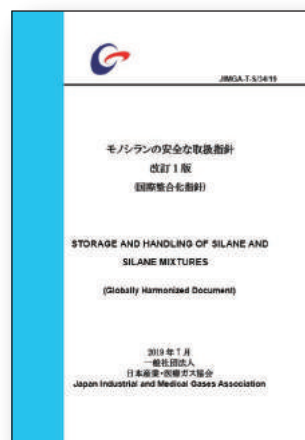
授賞式に出席したJIMGAメンバー

2019年度上期 国際整合化指針(文書)の発行

2019年4月以降JIMGA基準類・国際整合化指針1件、および国際整合化文書（参考文書）4件が発行されました。

JIMGA基準類は、国内法を配慮した文書で、JIMGA技術審議委員会の承認を得た文書です。また、国際整合化文書（参考文書）は、IHCメンバー4協会が国際整合化基準（英語）として発行した文書を技術内容の把握ができるように、一部（目次、はじめに、適用範囲）もしくは全文を日本語に翻訳し発行したものです。各協会の法規等の違いで、内容は必ずしも日本の国内法に則ったものではありません。会員の皆さまから

「国内法に準拠した内容に改め、JIMGA基準とすべきである」というご要望をいただいた場合は、JIMGA基準化を検討致しますので、ご意見・ご要望等をお寄せ下さい。



1. JIMGA基準類・国際整合化指針

書籍名	基準番号	発行年月
モノシランの安全な取扱指針 改訂1版	JIMGA-T-S/34/19	2019.7

2. 国際整合化文書（参考文書）

書籍名	基準番号	発行年月
医療用酸素および窒素のための空気分離装置およびローリーのバリデーション指針 改訂1版	IHC-Doc/20/19	2019.5
車輪付き液体容器の安全な取扱指針 初版	IHC-Doc/58/19	2019.6
ヒヤリハット事例集 —特殊ガス編— 知っておく必要のある取扱注意点 初版	IHC-Doc/59/19	2019.7
医療用ガス容器の外部汚染の洗浄指針 初版	IHC-Doc/60/19	2019.9

上記文書をご覧になる場合は、下記リンク先をご参照下さい。

<http://www.jimga.or.jp/front/bin/cglist.phtml?Category=7074>

これらの文書については、会員は全文閲覧可（ID、パスワード必要）となっています。

<問合せ先>

担当：国際部会事務局 羽坂 智

email: shasaka@jimga.or.jp TEL 03-5425-2420 FAX 03-5425-2256

(国際部会事務局 羽坂 智)

新事務局員の紹介



名 前：嶋崎 邦夫（しまざき くにお）

現住所：宮城県仙台市

生年月：1963年4月

略 歴：1986年4月 日本酸素(株)入社 名古屋支社配属
1990年 富山営業所（ここから営業職をスタート）
1993年 北関東支社
1998年 栃木支店 以後数年ごとの転勤を繰り返し、
2017年に東北支社（仙台）へ異動。

2019年10月 JIMGA東北地域本部 事務局長

趣 味：栃木支店に勤務していた際、関係会社の先輩社員に誘われてへらぶな釣りを始めました。この釣りは競技性が強く、自分の性格に合っていたのかのめり込んでしまい、現在に至ります。ある人曰く「理系や運動部出身者がハマりやすい」・・・う～ん、その通りかも。

抱 負：協会の仕事は初めてなので、まだ右往左往しており落ち着くには時間がかかりそうです。皆様のご指導・ご鞭撻をお願いいたします。



名 前：前田 和也（まえだ かずや）

現住所：東京都品川区

生年月：1967年3月

略 歴：1989年4月 大同酸素(株) 入社
2003年9月 エア・ウォーター(株) 環境事業部
2005年4月 エア・ウォーター(株) 総合開発研究所
2013年4月 エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター
保安推進部

2019年9月 JIMGA常務執行役員

趣 味：外出すること。車・自転車・徒歩で出かけ、自然の中でゆっくりと、またはスポーツ観戦をしたり、自ら多少汗をかく程度の運動をしたりと、機会を見つけ楽しんでいきます。

抱 負：高圧ガスの保安・技術に関すること、また環境・安全に関するを中心に、会員会社・事業所の方々の立場で必要かつ有益な情報整備や調査・企画を推進し、意識した業務・運営を行っていきます。よろしくをお願いいたします。

気ままに コラム

1年以上前に、運動不足解消にとランニングシューズを買った。でも、買っただけで満足して一度も走っていない。ただ単に走るのは疲れるだけで面白くないからだ、ということで自転車を買うことにした。買い物用のママチャリはあるが、長距離や坂道がキツイし、第一カッコよくない。ロードバイクかマウンテンバイクがいいと考えたが、週末しか乗らないので屋外の自転車置場に置いておくとすぐサビサビになるだろう、やっぱり家の中で保管できる折りたたみ自転車がいいと、ミニベロを買ってみた。これなら途中で疲れても、雨に降られても、電車に持ち込んで帰れるので安心だ。ヘルメットも買って準備万端。あれっ、似合わない。まあいいだろう。頭部の保護が目的だ。走ってみるとこぎ出しが軽いし、ギア比も大きいのでスイスイ走る。こいつは爽快で楽しい。休みの日はカメラを持って遠乗りしてみよう。。ところが、梅雨前に買ったのに、気がついたらもう10月だ。まだ片手で数えるくらいしか乗ってないぞ。乗ろうと思えば雨だったり、危険な暑さだったことが原因だ。いや、それだけではない。エレベーターのない4階に住んでいると、ミニベロを持って昇り降りするだけでも息が切れるからだ。・・・ん、何のために買ったんだっけ？

(広報担当 岩戸 康人)

